

9月定例会 本会議質問

本会議での質問の様子は、府議会HPでもご覧いただけます。
http://www.pref.kyoto.jp/gikai/

時代は大きく変わり、対処すべき課題も山積している。問題を生まみ出す社会構造そのものにメスを入れることが不可欠で、国・都道府県・市町村をひっくるめて行政のあるべき姿を模索すべきだ。

〈住民自治について〉

(二之湯) 住民の自立が国の基本であり行政はそれを妨げてはならないが、都市部の無縁社会や田舎の限界集落など、行政の支えが不可欠な地域もある。住民自治の疲弊の原因は何で、今後どう対処するか。

(黒瀬総務部長) 価値観の多様化や就業形態の変化等があり、地域住民が公共的な役割を十分果たし得なくなつた。高度成長期は税収増を背景に行政がそれを肩代わりしたが、今は行政も財政難で手を引き、公共の力が総体として落ちた。今後は、地域住民がNPO・大学等と協働する仕組みやリーダー育成に努めたい。

(一之湯) 江戸のムラは裁判・警察も含む自治を実現し、明治時代にも京都では町衆が学校を創る等、「自分達のこと」は自分達です。伝統がある。今後、環境や行政コストで制約がある中、自分達が街を担う充足感が幸せの一つとなるように、行政も自治を支える方向に進んでほしい。

〈京都市との関係について〉

(二之湯) 「府市協調」の言葉はむなく、今なお連携が悪くムダな二重投資も後を絶たない。大阪府のように、府市の制度改革も排除せずに、知事と市長が公開で抜本的な議論をすべきではないか？

(井上政策企画部長) 京都は大阪とは異なり、信用保証協会は一つだし、府立・市立各大学の学部の重複も無い。中小企業融資や観光案内所の一元化、鴨川放置自転車対策などの成果がある。今後も知



事と市長の年一回の懇談会を続け、府民・市民目線で取り組んでいく。

(二之湯) 大阪よりはましでも、府内の他の市町村ではこんな問題はない。府県と政令市が一所にあること自体を問題視すべきだ。府市がバラバラに政策提案して、後からその整合を図る仕事自体が膨大なムダだ。偉大なる京都の府市が、鴨川の放置自転車撤去などを成果として強調することも恥ずかしい。私が取り組む森林環境税や木材の地産地消でも協調できていない。先ごろ開所した「家庭支援総合センター(総事業費17億円強)」も二重投資だ。行政にムダがあるために住民への還元が少なくなることを無視し、府市の抜本的な役割分担・在り方の見直しを進めるべきだ。

〈関西広域連合について〉

(二之湯) 広域連合に参加する府県の知事は、同床異夢であり、組織の将来展望が極めて不明瞭だ。府県域を超える行政課題に対処する必要性は理解するが、対処療法のための事務組織の設立が急務なのか？我が国が国力を最大限引き出す統治を模索し、その中で広域行政はいかにあるべきかを議論する必要があるのではないか？

(山田知事) 国と地方のあり方が根本的に問われ地方分権が急務であり、その中で市町村合併もあった。確かに知事の間では、道州制・府県制の堅持・EU型の広域行政など色々な意見があるが、分権のために今はどう団結できるかと考えたのが今回の関西広域連合だ。今後も、あるべき姿を議論しながら、考えの違いを乗り越え、関西が団結して前進したい。

(二之湯) 関西広域連合設立の目的には、国と地方の二重行政の排除がある。府市の二重行政の排除も抜本的に進めるべきだ。

寒さが厳しくなってきましたが、お元気で過ごしのことと存じます。年末に向けて慌ただしくなりますが、くれぐれもご自愛ください。

危機にある今こそ問われる政治家の覚悟



普天間基地、尖閣諸島、北方領土・・・領土や国防・外交がお茶の間でも関心事になっていきます。敗戦後、冷戦が続く中、軍隊を認めない憲法のもと米国に国防を依存してきました。しかし今後は、この現状を問い、祖国の歴史を学び、存在意義を自覚し、我が国をいかに守り世界平和に貢献するかという外交・防衛政策を構築しなければなりません。それをタブーとしてきたうわべだけの「平和(ボケ)」を脱しなければ、我が国は滅びるでしょう。

TPPに参加するかが問われています。米国は不況の中で外国に市場を求め、中国も元安を維持しレアアースを外交カードにしています。経済活動は膨張を続け、地球環境保全のかけ声とは裏腹に、人類の生存を脅かす環境悪化は続きます。国益のみ追求する大國の姿には疑問を感じますが、国益を損ない続ける日本よりは国家の体を成しています。

国内では、不況は長引き、産業は空洞化し、雇用状況は最悪です。倫理観は衰え、家族や地域社会の機能低下は進んでいます。その中で、パートを求める主婦が増えれば待機児童は増加し、高齢化が着々と進めば、介護・医療・年金の課題は増える一方です。行政は借金まみれで、緊急の行政需要に答えられません。

今までの価値観・制度の延長上では未来の展望が開けません。大胆な行政改革のために今こそ政治の指導力が必要ですが、国民の政治不信も募るばかりです。私も含めて政治家が危機感を持ち、滅私奉公の覚悟を示さねばなりません。

府議会情報

【9月定例会】
9月22日～10月8日
府県域を超える行政課題に取り組む「関西広域連合」の設立を許可し、緊急経済対策・医療・福祉を中心とした約41億円の補正予算を可決しました。

【決算特別委員会】
10月28日～11月18日
平成21年度分の歳入歳出決算を審議しました。雇用や歳入の確保のための新産業育成や市場開拓、景気・雇用対策事業の効果などについて議論しました。

【11月定例会】
11月29日～12月16日
今後の府政の基本計画「明日の京都」の議案や、緊急雇用・景気対策やインフラ整備対策を中心とした約230億円の補正予算案が審議されます。

お困りごとや「ご相談ください」

皆様にとって、行政の仕事の役割分担は分かりにくいものです。「どこに相談に行けばいいのかわからない」とお悩みの時は、私の事務所まで、お気軽にお問い合わせください。

京福嵐山線
大映通
三条通
三ノ湯しんじ事務所

右京区太秦多藪町44-1 (大映通り)
TEL 075-862-1355
FAX 075-862-1350

◆ともにご語り合おう！

二ノ湯しんじは、教育のこと、環境のこと、福祉のこと、地域のこと、そして京都や日本の未来のことなど、皆様とお話をできる場をたくさん作ってきたいと考えています。時間や場所、人数は問いません。どのような会でも結構です。皆様のお声を聞かせてください。

◎お問い合わせは、二ノ湯しんじ事務所まで

テレビ中継

『12月3日(金) 13:00』
@KBS京都テレビ

本会議で
● 児童虐待
● 森林・林業政策
● 府市の二重行政
● 新産業育成

などについて質問します。
是非ご覧ください！

ホームページもご覧下さい！
URL: www.ninoyu.net

二ノ湯しんじ 検索

◆インターネットラジオ放送で、「ラヂオしんじ」の配信を始めました。

〈色々な形で活動をお伝えします。皆様からのご意見や感想をお願い致します。〉

"しんじ"を信じる 京都府議会議員 第9号 編集・発行 二ノ湯しんじ事務所

〒616-8167 京都市右京区太秦多藪町44-1
TEL: 075-862-1355 FAX: 075-862-1350
✉ ninoyushinji@palette.plala.or.jp

ニノ湯しんじ通信

～今こそ、伝統が未来を拓く！～

府市を一体的な行政と見て、府市の二重行政を見直し、未来への投資・備えを充実せよ！

府市の関係、何故良くないのか？

知事選挙や京都市長選挙のたびに「府市協調」と言われますが、府市の連携が悪く、ムダな二重行政が無くなるのが現状です。それは何故なのか、何が悪いのかを私なりに整理すると次のようになります。

地方公共団体の仕事は、「法律等で役割分担が決められているもの」と「それ以外のもの」の二つです。前者は、府と市が決まりに従い役割分担して協力すべき仕事で、後者は自主財源を使い創意工夫をこらせる仕事です。府と市町村の役割分担は、下の図1と図2のようになります。京都市は、大都市の特例によって一般的な市町村よりも多くの仕事をする権限があります。必然的に役所の職員や財源も大きくなり、自主的な仕事もより多く行えます。図3の赤色の部分は、府は京都市以外の府民（44%の府民）に対して、市は京都市民（56%の府民）に対して、それぞれ同じような仕事をしていることを示しています。

霞が関が仕事（権限・財源）を手放さずに、地方分権が進まないことを見ても、役所には「自分が仕事をしたい」という性質があります。特に京都市は、特別市という都道府県の関与が一切無い制度を目指した経緯があり、とにかく府の存在に敏感です。対する府は、いかに京都市民に存在感を示すかに努めてきました。そうした歴史があり、今なお府市には感情的な対立すらあります。これが、様々な分野で連携を悪くしている大きな要因の一つでしょう。

府市の関係が良くないことで生じる様々な事例

今年の春、東山五条に府が設置した「家庭支援総合センター」は、今までバラバラであった児童・婦人・障害者の各種相談所や一時避難所を一体化した複合施設です。ところが、市も以前からそれらの施設を独自に設置しています。府としては、南北に長い府域の中心である京都市に設置したいのですが、その際、既存の市の施設の増改築で対応するか、市が府の新たな施設を共同運営し既存のものを整理するなど、何故一本化ができなかったのか非常に疑問です。

また府と25市町村が、京都地方税機構を設立しました。これは、スケールメリットを活かして行政コストを抑え、優れたノウハウを共有して徴税率を上げるのが目的です。しかし、京都市は独自で十分に業務ができるように参加を見送りました。いずれも、府市双方にとって経費節減ができる事業なのにうまくいきません。

先の2つはごく最近に見られた代表的な例です。その他にも、府が行う各種事業を区役所などの市の施設では紹介しないとか、市が行っている住民主体の街づくり活動に府が直接交付金を出さずとか、（参照、下の表。数え上げればきりがありませんが、府県と政令指定都市という同じ仕事ができる二つの大規模な役所が一所にある制度を変えない限り、問題の抜本的な解決はありえないでしょう。

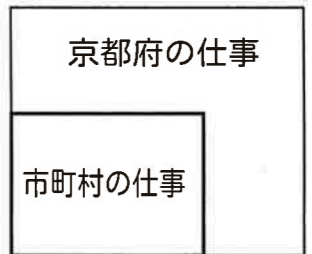
地方行政のこれから

経済成長が鈍化し高齢社会が進んでいる今の日本では、今まで以上に行政改革が求められます。その基本は、限られた税金の使い方を、役所の内部の費用（人件費・公務員の数）をより削って事業やサービスに回すということ。その時、色々な役所をバラバラに見るのではなく、国・府・市を一体として見る必要があります。そうすると、事業や人員の重複が見つかります。先に記した通り、京都では府庁と市役所に事業と人員が重複して配置されていると言えるのです（図3の赤色の部分）。

大阪府では、橋下知事が同種の問題意識で行動を起しています。「都構想」だけが解決策だとは思いませんが、市町村と広域行政（府とか都）の役割分担を明確にし、既存の制度を前提にせず、これからの時代に相応しい行政組織を構想する議論を始めたことは評価に値すると思います。平成に入ってから、小規模市町村は合併をしました。馴染み深い故郷の名前を失った人々がたくさんいます。また、道州制が政界・財界で議論される中で、関西では、府県の部分的な合併とも言える「関西広域連合」が設立されることになりました。今、世界的に社会状況が激変する中で、国民の力を最大限に引き出し、その生活を守る手段としての行政（統治）の在り方が根本から見直されています。府県と政令指定都市（京都府と京都市）の問題も聖域ではありません。

国も府も市も、住民にとっては全て「行政」です。地方分権の時代、府と市を一体的に捉え、住民にとって何が一番良いのかという立場から、将来への投資や備えの原資を生み出すためにも、府市の行政改革は待ったなしと言えます。

〈図1〉



〈図2〉



〈図3〉



(表) 府市の間にある問題点

連携が悪い	二重行政・投資
①公立高校の各種制度	⑩家庭支援総合センター
②総合支援学校	
③鴨川の自転車撤去	
④都市計画（道路や鉄道など）	
⑮京都地方税機構	
⑤子育てパスポート	⑪産業政策全般
⑥自転車の安全対策	⑫観光案内所
⑦地域力再生事業(府)	⑬国際センター
／街づくり事業(市)	⑭女性センター
⑧森林税の導入	
⑨木材の地産地消	

- ① 京都・乙訓地域では一通学圏・単独選抜が導入されず制度が複雑。
- ② 市内の府立学校には市民が通えていない。
- ③ 歩道は市、河川敷は府とバラバラに対応。昨年より市が一元撤去している。
- ④ 府全体を見る府と市中心に見る市では、道路整備の考え方などが違う。
- ⑤ 府の独自事業に、市がほとんど協力しなかった。改善に向けた協議は始まった。
- ⑥ 府の条例制定の後も、市の協力体制があまりなく、市も独自に条例を制定した。
- ⑦ 市の同種の事業と調整せず、府が独自事業を実施。市の協力がほぼ得られず。
- ⑧ 府・市の考えの違いなどで調整が難航。全国的には都道府県が実施している。
- ⑨ 府は府内産を、市は市内産を推進したい。双方に関わる民間事業者が困惑する。
- ⑩ 児童・女性・障害者の相談に関する施設を府市が共同運営せず、府立・市立が併存。
- ⑪ 多くの施設が同種のもの（商店街や伝統産業振興など）。組織の一本化ができない。
- ⑫ 京都駅ビルに、府・市それぞれが開設していた。本年ようやく一本化した。
- ⑬ 市内に、府立・市立の施設が併存。共同設置はできないのか？
- ⑭ 市内に、府立・市立の施設が併存。共同設置はできないのか？
- ⑮ 共同徴収により徴税率アップとコスト削減を図るも、市は独自にできると参加せず。

〈学生との勉強会を設立しました〉

議員になってから20人を超える学生を研修生として受け入れてきました。そのOBOGら10人と勉強会を設立しました。近年、師弟関係が減り未成熟な日本人が増えたとの指摘があります。



及ばずながら私なりに伝えるべきは伝え、様々な経験の機会を与えられればと思っています。

〈二男が誕生しました！〉

10月29日に二男が生まれました。長男もそうでしたが、私が出張から帰ってきた直後に生まれました。私の帰宅を待っていてくれた親孝行な子だと思っています（笑）深夜に妻の陣痛が始まったので、私が病院へ送り、そのまま立ち会うことができました。体重2952g、身長46cm。万暉（まき）と名付けました。周囲の多くのものを照らす存在になって欲しいと思っています。



〈街頭演説をしています〉

9月に入ってから、平日の朝に街頭での演説を始めました。昨今の政治状況に加えて、京都市右京区選出の議員として、京都府と京都市のあり方（府市協調）等についての持論を訴えています。だいたい朝の7:30~8:30頃、太秦天神川駅前、阪急西院駅前、JR花園駅前、梅津段町交差点などで行っています。声をかけて頂くと大変勇気づけられます。これからは、昼間や夕方も色々なところでやっています。私を見かけましたら、お声をかけて頂いたり、お手を振って頂いたりすると幸いです。

